

ZAR、米民主党政権への期待で堅調か

- ◆豪ドルは堅調な株価が下支え、サイバーマンデーやウイルス感染拡大に注目
- ◆RBA 理事会は無風予想、11 月利下げで当面は様子見姿勢か
- ◆ZAR、米民主党政権への移行による米国のアフリカ投資期待で堅調推移か

予想レンジ

豪ドル円 74.00-79.00 円

南ア・ランド円 6.60-7.20 円

11 月 30 日週の展望

豪ドルは、引き続き堅調地合いを維持できるか。新型コロナウイルスのワクチン開発が今年中に実用化される可能性が高まってきたこと、トランプ米大統領本人は依然として敗北宣言は出していないが、政権移行が始まったことにより、米株を中心に株式市場への資金流入がリスクオンに傾いている。この流れが来週も続けば豪ドルの支えになるだろう。ただし、米国の感謝祭明け後には市場が不安定に動く可能性があることには留意しておきたい。感謝祭翌日のブラックフライデーはウイルスの影響で大きな期待はできないが、来週から始まるサイバーマンデーはこれまで消費を控えていた消費者の行動が爆発する可能性がある。その一方で米国疾病予防管理センター（CDC）が感謝祭の旅行を控えることを推奨したにも関わらず、多くの旅行者が飛行機を利用し移動していることで、感染拡大のリスクもある。好悪両方の材料が挙がっていることから、感謝祭明け後の相場は神経質に動きそうだ。

豪州では 1 日に 10 月住宅建設許可が発表され、同日に豪準備銀行（RBA）の理事会が開かれる。通常ではあれば RBA 理事会が最大の注目となるが、11 月に政策金利並びに 3 年債の目標利回りを 0.25% から 0.10% に引き下げていることもあり、今回は政策金利の変更はなく声明文の変化も大きくは期待できない。なお、中国からは 11 月の各種 PMI などが発表される。ここ最近では豪中関係が悪化しているが、いまだに中国の経済指標で豪ドルが動くことがあるので注意しておきたい。

南ア・ランド（ZAR）も堅調に推移しそうだ。南アを含むアフリカ諸国は米国のバイデン民主党政権への期待が高い。オバマ政権時にアフリカ諸国担当の国務次官補だったグリーンフィールド氏が次期米国連大使に指名されたことも ZAR にとっては追い風となりそうだ。ただし、南ア準備銀行（SARB）の中期予算政策声明（MTBPS）では、公的債務が国内総生産（GDP）の 82% に達するとされる。SARB は公的債務について「債務拡大が金融セクターに深刻な影響を与える」と発表している。短期的には米政権交代による買いトレンドが継続されそうだが、中長期的には南アの債務超過のスピードに目を配る必要がありそうだ。

11 月 23 日週の回顧

豪ドルは底堅い動きだった。豪州から主だった経済指標などの発表がなかったことで、米株をはじめとするリスク許容度が豪ドルを動かした。ウイルスワクチン開発が進展していること、米一般調達局（GSA）がバイデン氏の大統領選勝利を認定し政権移行を認めたことなどで、株式市場が堅調な値動きを見せるとドル売り・円売りが進み、豪ドルは買いが優勢となった。

ZAR も堅調に推移した。豪ドル同様に堅調に推移する株式市場が ZAR 買いに導いた。アフリカ諸国に関心だったトランプ政権からバイデン政権への道が確実になったことも底堅くさせた。10 月の南ア消費者物価指数（CPI）は市場予想を上回る結果となったことで利下げ観測が後退し、ZAR 円は史上最安値を付けた後の戻り高値を更新した。（了）